

歳入

ふるさと納税寄付金が大幅に伸びたものの、地方税のうち町民税は、対前年度比1989万円、5・4%減となっており、平成30年度に引き続き前年度からの減額となった主なものは。

■町税

8億2298万円

■地方交付税

40億9347万円

■国庫支出金

8億2873万円

■県支出金

8億9743万円



ふるさと納税返礼品の一例(おせち料理)

歳出

平成30年度以降は予算の縮小期に入ってきたが、これまでの大型事業の実施による起債残高は大幅に増加している状況である。

今後において、定住促進住宅整備事業や公営住宅整備事業など、新たなハード事業も計画、実施されていることや、施設の老朽化に伴う維持補修費や改修工事などの増が懸念されるため、引き続き適正な財政運営が必要となっている。

■備品購入費

1039万円

■使用料及び賃借料

2266万円

Q 矢野昭三 議員

前記の2つの中には、他の費目への流用が多くみられる。
以前からこのような流用については指摘をしてきた。

何のための予算の議決か分からなくなり、これは行政力の問題を疑われることになる。

予算管理のどこがおかしいのではないか。

A 青木地域住民課長

財産管理については、総務課と地域住民課が供用している費目で、集会所の耐震補強工事の関係が計画より安く上がった関係と、旧佐賀保育所の交流センターみらいの工事が若干見積りより多く必要になったことで、流用した。
総務課等と横の連携を密にしていれば、もう少し流用が少なく済んだかもしれない。
以後、調整しながら進めたい。

A 松田町長職務代理者

補足として、総務関係の予算で本庁、支所、消防関係、衛生関係にも、それぞれ独立して予算を持っている。それぞれの部署で流用をまず行い、また、支所で先に流用を

行った後に、今度本庁の方で逆の流用を行う場合等もある。

135万円

■第三セクターを活用した地産・外商活性化事業委託 301万円

Q 中島一郎 議員

前記の2つの委託は、第三セクターの缶詰製作所を示していると思う。その実績が上がっていないという理由と、この業務委託との関連性が分かりづらい部分があるが、その点はどうか。

A 門田産業推進室長

昨年度と同様のような事業を行っており、見直しの必要もあるので、今年度予算においては少し見直しを図って、計画の立て直しをしているところだ。また、「第三セクター」の後に、「及び町内事業所の」という言葉も入っており、第三セクターに限った事業ではない。



交流センターみらいとして利用されている旧佐賀保育所

